

# としょかんだより第83号

2014年 6月開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2014年 7月開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日
	9:00-19:00		

## 第1回 図書館戸田文化講座 「空海と私」



5月30日(金)高野山大学図書館閲覧室において図書館戸田文化講座が開催されました。講師は作家の夢枕獏先生で演題は「空海と私」

予定では20分ほどの講演の予定でしたが、それ以降も参加者の質疑応答を含めて50分ほどのご講演をいただきました。

**多数のご参加ありがとうございました。**

次回の戸田文化講座は 6月24日開催です。

## 第2回 図書館戸田文化講座

### 「能の世界」

日 時：6月24日(火)16時40分～17時40分  
場 所：高野山大学図書館閲覧室  
講 師：浜畑 圭吾 助教

※事前申込不要、直接会場へお越し下さい

\*講演中は貸出手続きを一時停止します。

## 平成26年度第1回図書館茶話会 -図書館長を囲んで-

主催：本学裏千家茶道部

後援：高野山大学図書館

日時：7月4日(金)17時～18時

場所：図書館閲覧室

※ 当日は、お抹茶とお菓子のお接待があります。  
裏千家茶道部が入れたお抹茶をいただきながら  
気軽に下西図書館長とお話ししましょう。

## 発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡

高野町高野山 385

高野山大学図書館閲覧室

TEL：0736-56-3835

FAX：0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

# 豊臣秀吉の高野を詠んだ和歌

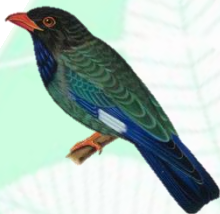
□ ブッポウソウ

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

□ 写真提供『原色日本鳥類図鑑』

□ 940/ケ/10

□ pl.20



江戸時代貞享元年(一六八四)、雲石堂寂本によって『野峯十八景』が出版された。寂本については四国遍路に造詣深い人なら誰でも知っている人物である。『野峯十八景』は、高野山のよく知られた景物の挿絵とともに漢詩や和歌などを添えられたものである。いわば高野山案内書のようなものである。そのなかの「佛法僧鳥」に豊臣秀吉の和歌が紹介されている。

伝へこしとりもみのりをこなひの声は高野に有明の月 秀吉公

大師以来長年伝えてきたみのり(御法)を後夜の行い(お勤め)をしていると、仏法僧の声がどこからともなく聞こえてくる。その鳥の声と勤行をする人の声とが渾然一体となって聞こえて我が耳に聞こえてくることよ、おりも有明の月が虚空に美しく照り映えていたよ、の意か。「高」に声が高い、と高野の「高」が掛けられている。伝統的な和歌の修辞(掛詞)である。和歌の世界では「コウヤ」とはいわないで、「タカノ」と訓みならわしている。

ところで、秀吉は文禄三年(一五九四)に高野に登山している。『太閤記』巻十六「高野詣之事」に、

三月三日、秀吉公高野へ御登山なされ、青巖寺に御寄宿ましまして、二親尊霊のため 御香いかにもねんごろに沙汰し給ひけり。かくて一山千人の僧徒召し寄せられ、御母堂 の御志として八木<米のこと>濟々<多いという意味>給りにけり。

とある。木食上人へ千石をはじめ、計三千五百石余を布施としたようである。破格といえる布施であった。秀吉の和歌は『性霊集』巻十「後夜に仏法僧の鳥を聞く」を下敷きにしていると思われる。案外、秀吉は文事の素養があった武将である。

かんりん ひと ざ そうどう あかつき さんぼう こえいつちよう  
閑林に独り坐す草堂の暁 / 三宝の声一鳥に聞こゆ  
ひとこころ あり せいしんうんすいとも りようりよう  
一鳥声有り人心有り / 声心雲水俱に了々たり

午前四時ころであろうか、後夜の勤行はここに行われる。その折に仏法僧の声が聞こえてきた、という詩題に続いて、自然と一体となっている弘法大師空海の澄み切った境地が七言絶句にあらわれている。仏法僧の声を聞きながら、鳥の声と人の心とが解け合っ限りない感情が大師に喚起されている。